



高齢者の味覚障害に 歯科医院を役立てよう!

高齢者の3人に1人に見られる味覚障害。原因はさまざまだが、口腔疾患との関連は見逃せない。一方で、患者アンケートでは、「味覚障害になった時、どの診療科を受診したらよいか分からない」との回答が最も多かったという結果も出ている。

本書は、高齢者に多い味覚障害と口腔疾患との関わりを分かりやすく解説し、味覚障害になった患者、家族の相談場所として、歯科が取り組む内容を示している。

前半の「絵本編」では、味

覚障害を患うおばあちゃんを主人公に、口腔乾燥や口腔カンジダ症、口内炎が味覚障害の原因となることや、舌炎を生じる全身疾患

などが原因で味覚障害が起きること、さらに義歯の不具合やむし歯、歯周病、低栄養と味覚障害の関係などを解説。後半の「お役立ち情報」では、予防法や食事の工夫などを示している。

神経生理学を基盤に味覚治療やドライマウス治療の第一線で活躍する著者は、治療には医科歯科連携が不可欠とし、歯科では治療に加え、栄養指導もしてほしいとドクターに呼びかけている。

佐藤しづ子著 / B5判
変型 / 46ページ / 1500円 / 学建書院